

ひのはち「子供がつくる学校」プロジェクト

“なかよしプレイタイム”

本校では、子供たちが自分たちの活躍の舞台（学校）を、自分たちでつくっていく活動を重視し、その過程でこれからの時代を生きる資質・能力を育むことを目指している。異学年のなかよし班で取り組む「なかよしプレイタイム」は、この活動の中核となる。子供たちが、自分たちで運動遊びを選び、遊び方を決めて工夫して楽しむ活動を主体的に実施できるようにするための環境整備を行うため、「特色ある学校づくり支援事業」の実施校としてエントリーする。

目指す学校像「すべての子供の活躍の舞台 日野第八小学校！」の実現を目指した活動

児童と教職員の共通目標
今より もっと楽しい学校をつくる

チャレンジ目標
令和5年度 … **くふうでつくる 日野八小！**
- すずんで・みんなで・楽しんで -
令和4年度 … ありがとうが あふれる学校
令和3年度 … 今できることに 力いっぱい！

プロジェクトの
令和4年度までの具体的な取組
○「各学年の役割」を果たす活動
○ESD ミーティングの実施
○委員会活動の改革
○体育の授業改善
○「ありがとう」でいっぱい
○たてわり活動の復活・再生・発展
○全学年での学級編成替え

学校づくりに主体的に参画する姿

○自分たちできめて
集団での意思決定

○振り返って
自己評価活動

対話

○かかわり合って
協働による学び

育みたい力

○「PDCA サイクル」を
自分自身で回し続
ける力
○集団（多様な他者との
関わり）の中で自
分を生かす力

全ての子供に「自分が動けば 何かが変わる！ 仲間と動けば 何かができる！」の実感を！！

活動の発展

令和2年度

コロナ禍により「たてわり活動」の全てを休止

令和3年度

なかよし班活動

3密を避け、校庭に限定し、身体接触がなく、用具を共用しない遊びを復活

リーダーの6年生が遊びを工夫するも、低学年からの「つまらない」の声

令和4年度

8プレ

「8プレ（八小プレイタイム）」と名称を変更し、5種類の運動遊びを動画で示し、ローテーションをしながら6年生がリーダーとなって遊びを運営し、遊び方を工夫して楽しめるようにした。

- ・遊び方の工夫が広がらない。
- ・同じ遊びを繰り返すことで飽和状態が生じた。
- ・リーダーを中心とした自主的な活動へと発展させる。



令和5年度

“なかよしプレイタイム”

- 「なかよしプレイタイム」と名称を変更し、6年生をリーダーとし、多様なメンバーの協働で楽しむ自主的な活動であることを明確にした。
- 遊びの種類と場を5種類から22種類に増やし、様々な動きや遊びに取り組めるようにした。
- 自分たちで遊びを選び、工夫して活動し、振り返り、次の遊びを選ぶ…というPDCAサイクルに沿って活動できるようにした。

<遊び>

- [校庭] 幅跳び遊び、ボール蹴り遊び、タイヤ鬼、シャトル投げ、長なわ、フリスビー六虫、いろいろドンじゃん、いろいろ鬼遊び、しっぽ取り、的当て、ボール遊び、棒遊び、竹馬
- [体育館] 風船遊び、フープ遊び、運び屋さん、リレー遊び
- [教室等] ミッションインポッシブル、バンブーダンス、お手玉ポッチャ
- ※「八小お助け隊（地域）」「保護者ボランティア」との連携

本事業を活用し、この活動を実施するための環境を整備を行う。

令和6年度以降

充実改善・特色として定着